

景況レポート

(7月分・情報連絡員 80名)

非製造業のDI値が下降

～商店街・小売業が苦戦～

【概況】7月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが10.0%(前月調査11.3%)、「悪化」が38.8%(同31.3%)で、業界全体のDI値は-28.8となり、前月調査と比較して8.8ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-25.0で前月調査(-28.1)と比較して3.1ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-31.3で前月調査(-14.6)と比較して16.7ポイント下回った。

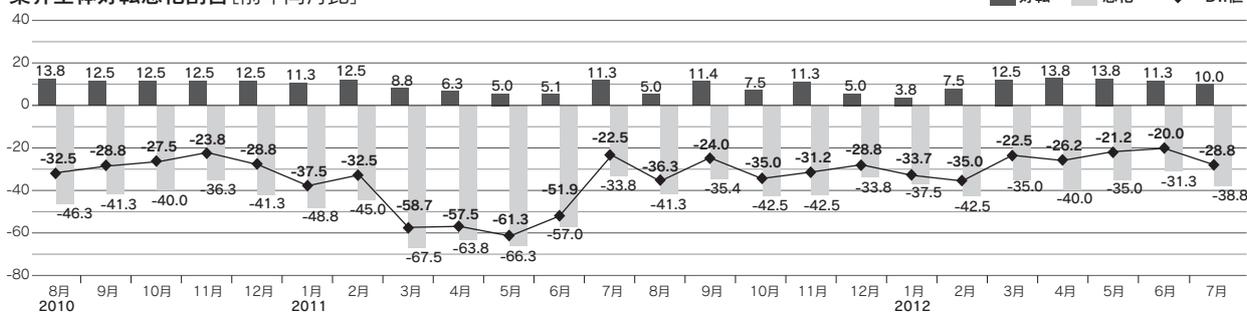
製造業では、繊維製品を始め、全体的に受注件数が多くなってきているものの、食料品製造業では原材料の異常な高騰が続いており、今後に深刻な状況。非製造業では、自動車販売が依然としてエコカー減税・補助金により好調で推移しているが、商店街などは、大型店へ客足が流れたため、景況が悪化したと判断した人が多かった。(回答数:80名 回答率:100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☁

【凡例】
 ☀ 快晴 30以上
 ☁ 晴れ 10以上 30未満
 ☁ 曇り △10以上 △30未満
 ☔ 雨 △30以上 △10未満
 ☔ 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

豆腐製造	夏場は売上が低迷する時期であり、県外業者の進出に加えて、原料大豆の動きが異常な高値になっている。現在は、手持ち在庫があるので実際には高い大豆は使っていないが、冬場にかけて大変心配な状況である。
繊維製品	初秋物の生産が本格的に始まり、アパレルメーカーは工場のキャパ取りに躍起になっている様子で、受注の持ち直しにとりあえず安堵感があり、どの工場もフル稼働に入った。
一般製材	春先から不振だった地場需要もようやく動き出し、構造材主体に荷動きが見られるようになってきた。しかしながら、販売価格は極端なユーロ安から、北欧材の安値攻勢は続いており、値戻しできる状況にはない。
生コン	7月の出荷数量は前年同月比99.9%。4月～7月累計で前年比119.3%と需要増になっている。これは前年度の震災による需要減の反動であり、前年の8月以降は出荷量が増加しているため、今後の需要減が心配される。
機械金属	6月の売上高は676,416千円と前年同月比81.9%、前月比で105.8%であった。受注残は1,841,911千円で、前年同月比91.4%、前月比87.2%となっている。会社によって温度差が大きく、全体的には悪化している。
自動車販売	7月の新車販売台数は、登録自動車2,749台(前年同月比116.7%)、軽自動車2,678台(同149.8%)で、合計5,427台(同131.0%)であった。引き続き、エコカー補助金・エコカー減税の効果で好調な結果であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり134円10銭で前月比5円の下げ。軽油1ℓあたり119円70銭で前月比4円10銭の下げ、配達灯油は18ℓで1,578円で前月比73円の下げとなった。14週連続の下げとなり、販売減及びマージンの悪化により苦戦している。
商店街	夏物衣料は酷暑によりなんとか例年並みを維持しているが、消費者は郊外の大形店へ分散して流れている状態である。売上や来店者数で見ると、昨年度対比1割の減となっている。
一般建築	国の震災対策に伴う高速道路(日沿道)や港湾関係の発注が遅れている。また、依然として低入札が続いているために採算が悪く、経営上の難題となっている。
トラック	数量、収入とも前年同月と比べて変わらず推移したが、依然として低調な動きである。品目別では、自動車部品が10%増、下旬から出荷された西瓜が10%増、自主米が20%減、その他の品目は軒並み微減となった。